

1、基本理念

「夢はでっかく、歩みは一步步」

どんなに重い障害があっても、一人の人間として生き生きと活動できる場所を目指します。「育ち合い、支え合いを大切にしたい、真に人間らしい営み」をめざして、彼らを取り巻く家族、そして職員たちが一緒になって、地域の人たちの理解を得ながら、ゆっくりと活動を展開していきましょう。

沿革

1993年「どんなに重い障害があっても地域で生活したい」という思いのもと、麦の里の活動は始まりました。

既存の施設からも断られるような、重い知的障害者や重複障害者を受け入れながら活動を続けています。障害を持ちながら前向きに頑張っている人たちを、共に生き、共に成長する「仲間」として、排除せず、彼らと共に麦の里は成長してきました。

- 1991年 4月 民家で活動開始
- 1993年 3月 障害者とともに歩む麦の会設立
- 1994年 5月 旧上品野小学校で作業開始
- 1995年11月 共同作業所麦の里開所
- 2003年 7月 社会福祉法人麦設立
- 2004年 9月 身体障害者授産施設・通所療護施設「麦の里」開所
- 2009年 2月 グループホーム建設予定地取得
- 2011年12月 生活介護・就労継続支援B型多機能事業所へ移行
- 2013年 2月 グループホーム用中古住宅取得（品野町1丁目・第2ホーム）
- 2015年 4月 グループホーム「七色の麦」開所
- 2019年 6月 グループホーム「七色の麦」の3番目のホームとして
「青色の麦」開所

2、運営方針

- 1) 私たちは社会的使命と社会的責任を認識し健全な事業運営を行います。
- 2) 私たちは公正公平を原則とし、「相談」と「話し合い」を基本に、民主的な事業運営を展開します。
- 3) 私たちは、様々な障害を抱えた利用者を、「共に、同じ地域社会の中で生活していく人間」あるいは「共に、仕事を分かち合いながら働く人間」として認め、その存在を「自分と等しく社会の一員である」と認めて接していくために「なかま」と呼びます。
- 4) 私たちはなかまの安全と安心を守るとともに、障害者の自立支援となかま本位の精神を尊重し、誠実な施設運営を展開します。

- 5) 私たちは、なかまはもちろんのこと、職員その他すべての関係者の人権を尊重します。

そして、発達保障の立場に立ち、一人ひとりの「主体性」を尊重しながら、地域福祉の健全な発展に貢献します。

- 6) 情報マネジメントを基本にして、運営面のすべてにおいて情報公開を原則とした透明性のある事業運営を行います。

3、法人運営

1) 理事会・評議員会

理事会	2019年5月23日	2018年度事業報告案 2018年度決算案 監事監査報告 常勤・非常勤パート有給休暇取得日及び有給休暇付与日数の整理・修正について 青色の麦開所について 麦の里空調設備更新工事契約について 空調設備更新資金の理事長からの借入金契約について 第9期理事及び監事候補の推薦について 理事長業務報告 評議員会の議題その他 ホームページ作成について
評議員会	2019年6月20日	2018年度事業報告 2018年度決算 監事監査報告 第9期理事及び監事の選任について
理事会	2019年6月20日	第9期理事・監事の選任結果 第9期理事長の互選 送迎車両の増車について
理事会	2019年10月31日	2019年度予算執行状況 2019年度第一次補正予算案 福祉・介護職員等特定処遇改善加算に伴う給与規定改正案 「職員人材紹介」報奨金制度の創設について 就業規則に準正職員枠の採用規定を追加する改正案

	空調設備更新終了及び炭化炉等の更新終了について（報告）
	理事長業務報告
	評議員会の議題
評議員会 2019 年 10 月 31 日	2019 年度予算執行状況
	2019 年度第一次補正予算
理事会 2019 年 3 月 19 日 （書面による開催）	2019 年度第二次補正予算案
	2020 年度事業計画案
	2020 年度予算案
	就業規則改正等
	就業規則改正案
	給与規定改正案
	新型コロナウイルス休業補償に係る有給休暇の取り扱いについて
	職員人材紹介報奨金制度要綱
	1 月 23 日富士産業（給食業者）年度末撤退表明に対する対処について
	地中配管からのガス漏れによる緊急工事とガス提供会社の変更について
	12 月 27 日新ホームページ開設と 1 月 15 日リコープロバイダー契約一方的解除に対する対処について
	瀬戸市障害者手当廃止提案に対する反対運送について
	4 月からの利用者及び職員採用について
	評議員会の議題
評議員会 2019 年 3 月 26 日 （書面による開催）	2019 年度第二次補正予算
	2020 年度事業計画
	2020 年度予算

2) 監事監査

2019 年度監事監査は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、2020 年 5 月 19 日と 20 日に Web 会議を導入しつつ分散実施しました。

4、事業計画

1) 短期計画（1 年～2 年）

2019 年度中に、麦の里の就労継続支援 B 型事業を廃止し、生活介護単独事業所を

目指しましたが、職員を雇用すると職員が辞める状況が続き移行できませんでした。しかし、新年度6月から移行できる目途が立っています。

将来的な事業展開に備え、新たな事業用地を探しましたが、良い物件はありませんでした。

青色の麦は2019年6月に開所しました。

麦の里・七色の麦の防災グッズは、整備できませんでした。

炭焼き釜、濾過設備の更新は、清水基金からの助成を受け実施できました。

麦の里空調設備は、理事長からの資金借入により実施できました。

麦の里インターネットウィルス対策の強化としてUTM（ゲートウェイセキュリティ）を導入しました。

2) 中期計画（3年～5年）

2023年までに麦の里電話装置を更新する予定ですが、前倒して新年度に実施できるよう2社と協議を始めました。最終的には3社から見積もりを取る予定です。2024年までに麦の里全館LED化を図るため、蛍光灯の製造状況の調査を行っています。

2025年までに第2麦の里の開所を目指していますが、具体的な話し合いができていません。

麦の里大規模改修に向けた点検及び改修の実施計画作成、実施に向けた計画は進んでいません。

3) 長期計画（5年以上）

以下の事項についての協議は実施できていません。

グループホーム事業の拡充

生活介護事業の拡充

麦の里大規模改修の本格実施

5、地域公益活動

福祉有償運送事業は対象者がおらず、実施しませんでした。

麦の里仲間の給食費軽減措置を継続（材料費代1食270円を230円に軽減）して実施しています。

近隣住民との交流。地域行事への貢献は、草むしり程度で終わっています。

七色の麦多目的ホールを活用した地域貢献は実施できませんでした。

6、人材育成及び確保

研修への参加、資格取得の支援を実施し、配管1名、介護福祉士資格1名が資格取得しました。人材確保のための準職員枠拡充、人材紹介報奨金制度を整備しました。

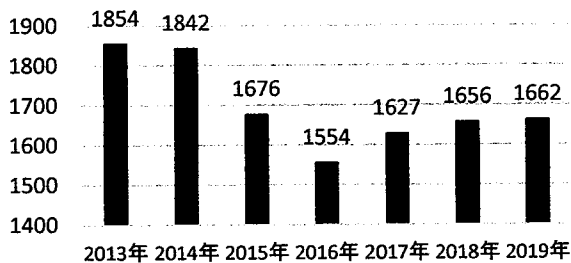
2018年度事業報告(利用実績等)

1、麦の里 利用者の状況

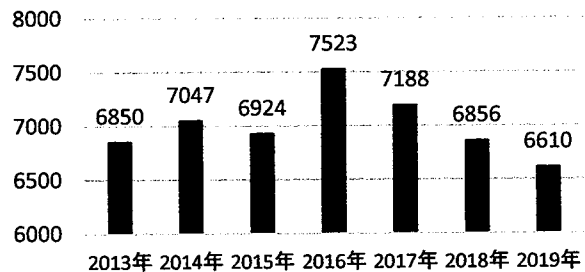
2020.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市	男								
	女			1					1
中核市	男		6	10	4	2	1		23
	女		4	5	2	1	2		14
その他 県内市町村	男								
	女	1							1
愛知県外	男		6	10	4	2	1		23
	女	1	4	6	2	1	2		16

年間利用者数の推移

就労継続支援B型



生活介護



2、七色の麦 利用者の状況

入所メンバー

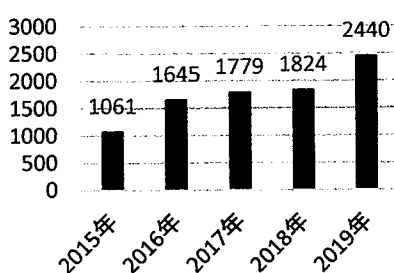
2020.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市	男								
	女			1					1
中核市	男		1	4	3				8
	女		1	1	1	1	1		5
その他 県内市町村	男								
	女								
愛知県外	男		1	4	3				8
	女		1	2	1	1	1		6

体験入所メンバー

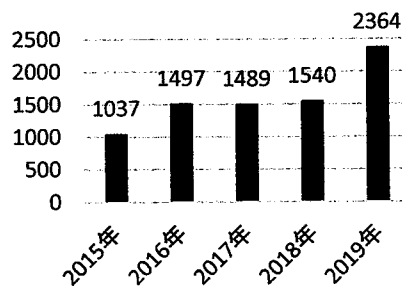
2020.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市	男								
	女								
中核市	男		4						4
	女		1	2					3
その他 県内市町村	男								
	女								
愛知県外	男		4						4
	女		1	2					3

年間利用者数の推移

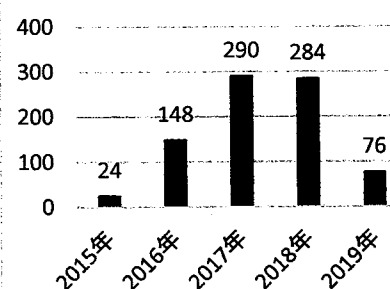
七色の麦総数



七色の麦レギュラー



七色の麦体験利用



3、就労継続支援事業B型麦の里

①利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計開所日数
開所日数	22	24	23	24	21	21	25	22	22	22	20	23	269

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	142	143	142	147	126	131	154	138	144	131	119	145	1662
利用率(%)	64.5	59.6	61.7	61.3	60.0	62.4	61.6	62.7	65.5	59.5	59.5	63.0	61.8

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
欠席加算数	2		2	2	2	1			1	3	7	1	21

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院者数											1	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(障害基礎年金1級者数)
重度支援者数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延長支援者数													

2020.3.31現在		瀬戸市	春日井市	合計
利用者の住所地	男	4	1	5
	女	2		2
新規利用者数				
退所利用者数				

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
障害支援区分	4/1現在			1	2	4		
	3/31現在			1	2	2	2	

2020.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男	2	2			1		5
	女			1		1		2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
送迎利用者数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7.0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
送迎利用延数	242	245	244	279	234	248	290	256	270	252	225	279	3064

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
給食数	123	122	117	122	104	113	128	117	125	112	96	123	1402

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
サービス管理責任者	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
職業指導員	0.8	0.8	0.8	0.9	0.8	0.9	0.9	0.7	0.7	0.7	0.9	0.8	0.8
生活支援員	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3
目標工賃達成職員	1.2	1.5	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.0	1.1	1.3
直接処遇職員	2.3	2.6	2.4	2.5	2.4	2.4	2.5	2.2	2.1	2.2	2.1	2.2	2.3
事務員	0.1	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.3	0.3	0.4	0.3

常勤換算数は、0.1未満は0.1と表しています。その他は、小数点第2位以下四捨五入しています。
直接処遇職員数は、国の定めにより算出した数であるため、生活支援員等の合計数と異なります

4、生活介護表の里

① 利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開所日数
開所日数	22	24	23	24	21	21	25	22	22	22	20	23	269	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	32	31.1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	587	596	524	583	510	536	595	565	549	512	478	575	6610
利用率(%)	88.9	82.8	75.9	81.0	81.0	85.1	79.3	85.6	83.2	77.6	79.7	83.3	81.9

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
欠席加算数	13	17	24	13	12	7	20	7	27	27	28	26	221

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院者数	1	1	4	2	2			1	1	2	3	2	
延長支援者数	2	2	1	2	1	1	1	1	1		2	1	15

2020.3.31現在	瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	他	合計
利用者の住所地	男	13	1	3	1		18
	女	5	3	1	1	3	14
内新規利用者数		1				1	2
内退所利用者数							

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
障害支援区分	4/1現在					4	4	23
	3/31現在					4	4	24

2020.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男	4	8	4	2			18
	女	1	4	6	1	1		14

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
送迎利用者数	28	28	27	27	28	28	28	29	29	29	28	29	28.2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
送迎利用延数	931	941	848	942	847	920	1001	966	934	854	816	980	10980

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
給食数	539	533	487	523	449	488	536	514	513	474	423	506	5985

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
入浴利用者数	12	13	12	12	12	12	12	13	12	11	12	12	12.1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入浴利用延数	91	86	68	83	79	85	80	82	66	63	72	82	937

	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数
医療的ケア	吸引(口腔内)	4	酸素吸入		服薬管理	14
	吸引(鼻腔)	3	モニター管理		創傷処置	
	吸引(気管切開)		じょくそうの処置	1		
	経鼻経管栄養		疼痛管理			
	胃ろう栄養管理	4	インスリン管理			
	点滴		導尿	1		
	ネブライザー	2	浣腸			
	気管切開のケア		摘便			

	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数
理学療法 相談及び対処	ストレッチ指導	7	筋緊張の緩和等	7		
	補装具等の調整	8	自助具の開発等	6		

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	35	35	33	34	35	35	35	34	33	32	33	34	34.0

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
サービス管理責任者	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
生活支援員	16.4	17.0	15.4	15.7	15.4	16.0	15.2	15.6	15.2	14.9	14.9	15.7	15.6
医師	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
看護師	1.2	1.3	1.4	1.4	1.5	1.4	1.4	1.3	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
理学療法士	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
直接処遇職員	17.7	18.4	16.7	17.2	16.9	17.6	16.7	17.1	16.7	16.4	16.4	17.3	17.1
事務員	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4

常勤換算数は、0.1未満は0.1と表しています。その他は、小数点第2位以下四捨五入しています。
直接処遇職員数は、国の定めにより算出した数であるため、生活支援員等の合計数と異なります

5、共同生活援助七色の麦

①利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計開所日数
開所日数	16	21	17	23	17	18	21	16	18	19	18	22	226

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	8	8	11	11	14	14	14	14	14	14	13	14	12.4
体験利用者数	12	11	3	3		1	1		1	1		1	2.8

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	123	129	135	201	195	225	262	224	213	219	200	238	2364
体験延利用者数	25	23	6	11		2	2		2	2		3	76
合計延べ利用者数	148	152	141	212	195	227	264	224	215	221	200	241	2440
利用率(%)	92.5	72.4	82.9	61.4	76.5	84.1	83.8	93.3	79.6	77.5	74.1	73.0	108.0

※6月定員は15名だが、末から開始のため10名で計算

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重度支援対象者	7	6	4	5	4	5	4	4	5	4	4	4

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療連携者数													

2020.3.31現在	瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	東郷町	合計
利用者の住所地	男	6		1	1		8
	女	3		1	1	1	6
内新規利用者数							
内退所利用者数							

2020.3.31現在	瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	東郷町	合計
体験利用者の住所地	男	3	1				4
	女	2		1			3

※今年度体験利用者

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
障害支援区分	4/1現在			1		3	2	8
	3/31現在			1		3	2	8
体験・支援区分	人数					2		5

※2020.3.31現在

2020.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男	1	4	3				8
	女	1	2	1	1	1		6
2019.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計

体験利用者	男		4						4
年齢構成	女		1	2					3

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	23	23	23	23	23	23	23	25	24	24	24	25	23.6

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
サービス管理責任者	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
生活支援員	3.9	4.0	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	4.0	3.8	3.9
世話人	3.5	4.4	4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	4.4	3.9	4.1	3.7	3.6	4.0
夜間支援員	1.9	2.3	2.3	2.2	2.3	2.2	2.3	2.3	2.1	2.2	2.3	2.0	2.2

常勤換算数は、0.1未満は0.1と表しています。その他は、小数点第2位以下四捨五入しています。

6、その他の職員配置

実数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
運転手	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
ハウスキーパー	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

7、職員総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
職員実数	50	50	51	51	52	52	52	51	50	49	49	50	50.6
内嘱託医	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
内派遣職員数(シルバー含む)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2.1
休職職員数	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1.1
月全休職員				1	1	1	1						0.3
内月途中採用職員数	1		2		1		1						
内月退職職員数		1				1	1	1	1	1		1	
給与支払い職員数	46	46	47	46	47	46	47	47	46	45	45	45	46.1

2020.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
正職年齢構成								
男		2	4	1	2			9
女		1	2	1	1			5

2020.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
パート年齢構成								
男				1	3	4	2	10
女			1	8	6	6		21

※休職中職員含む

2020.3.31現在	1年未満	3年未満	5年未満	7年未満	9年未満	9年以上	合計
正職在職年数							
男		1	3	3		2	9
女	1		1		1	2	5

* 麦の里パートから正職員採用した場合、期間は継続で計算

2019.3.31現在	1年未満	3年未満	5年未満	7年未満	9年未満	9年以上	合計
パート在職年数							
男	1	3			2	4	10
女	1	3	2	5	4	6	21

※休職中職員含む

8、職員 各種資格取得の状況

	正職員	パート		正職員	パート	派遣
社会福祉士	1	1	サービス管理責任者	5		
介護福祉士	5	2	相談支援専門員	4		
精神保健福祉士			理学療法士		1	
ヘルパー1級	1		看護師・准看護師		2	
ヘルパー2級	2	9	視覚障害者移動介護従事者養成研修	1	2	
介護職員初任者研修		2	同行援護従事者研修			
強度行動障害・基礎	5	3	強度行動障害・実践	5	3	

2019年度 文章総括

I. 全体のまとめ

◎念願の『青色の麦』の事業開始が、実現できました。

苦心惨憺『リフォーム』の完成を経て、6月に待ちに待った事業スタート。

『青色』開所に合わせて『七色の麦』のメンバーの入れ替えも行い、

【共同生活援助事業＝グループホーム活動】は新たな段階に入りました。

◎開所16年目を迎えた『麦の里』の仲間たちは、4月から新しい仲間を受け入れて38名でスタートしました。

○久しぶりの新卒の仲間は医療的ケアが必要な方で、遠く岐阜県瑞浪市からの通所。それでも週3日、月に7～8日間の利用を重ねながら順調に慣れてくれました。

○一方、20代半ばを過ぎた仲間が、1名6月に緊急手術。1ヶ月以上の長期入院。他にも1ヶ月近く入院された仲間が何人か出て、気をもんだ1年となりました。元々、もうすぐ70代となる仲間が2名居る中で【高齢化】を感じてはいましたが、あらためて【年齢の山】を越えなければならない、重度重複の仲間たちの、「日々の暮らし方」と「歳の取り方」について、考える時期がきています。

○作業活動としては、

◇「ぱん工房」～2018年度末から育児休業で職員が交代。未経験の職員が1年頑張り、2年目を迎えています。

◇「炭工房」～夏に漸く新しい窯(3代目)が入り、炭焼きが順調になりました。

◇冬の物資販売～麦の会母組が撤退。仲間たちの作業として少しずつ、取り組みを増やしていきます。

○療護グループでは、『車椅子ダンス』に挑戦。それ以外にも図書館へ紙芝居や絵本を借りに行く等々、これまでとは違ってアクティブに活動を展開。

○『車椅子ダンスを皆さんに発表したい』という熱い想いに突き動かされて、

1月には初の試み『わくわく発表会』を開催。品野地域交流センターぬくも里で、仲間・スタッフ、そして家族合計100人近い人間が大集合。予想以上に、楽しいひとときを、みんなで過ごすことができ、良いイベントが実現しました。

◎職員体制の面から振り返ると

○今年度も育児休暇を取得した職員が2名いる事は、大きな評価点です。

2018年度3月に産休となり、そのまま1年間育児休暇を取っている女性1名。

秋に1ヶ月の育児休暇を取得した男性1名。

○夏に1名増員できましたが、体調不良で急遽退職。

秋にパートで入職した女性を、12月から「正職員」として抜擢。

12月末に10年間働いた正職員が退職となり、結果としては年度内に増員できず、職員体制としての強化ができず、苦しい1年でした。

○業界全体として全国的に「人手不足」が深刻な中、秋には「職員の紹介制度」を

新たに導入。年度末には、50代で入職された有力な50代職員を「準職員」として待遇改善対策を行い、とにかく職員体制の安定と増員を目指して動いています。
(渡邊照)

★★★【新型コロナウイルス感染対策に関して】★★★

1. 感染対策として実施した内容

1) 利用者・職員に対する注意喚起として

- ①手洗い・手指消毒の実施
- ②うがいの実施
- ③マスクの着用
- ④毎朝の検温の実施

2) 玄関、各部屋の入り口に手指消毒剤・マスクの設置。

来客者に啓蒙・アピールの実施

3) 屋内全般の換気を心掛ける

車両で移動する際には、窓を開けるなどして、換気に気を配る

4) 「屋外作業」の方法に関しての話し合いと対策の実施

- ①廃品回収等は、人数制限をして出掛ける
- ②できる限りマスクを付ける
- ③なるべく手指消毒剤を持っていく等、外出先でも清潔を心掛ける。

5) 公共交通機関利用者に対する送迎の保障

2. その他利用者・職員への配慮

▼文章による注意喚起

「自粛休業」に関する紹介

万が一休業した場合の対策の紹介

▼口答による日々の注意喚起

3. 新型コロナ感染騒動の中で ～麦の里・七色の麦の活動に関わって～

- ①永年、グループホームの夜勤職員として頑張っているパート職員の息子さんは重度の自閉症。「ロングショートステイ」で預け先の事業所が「コロナ対策」で受け入れ拒否。

自宅で毎日生活することになり、母であるパート職員はやむなく休業して、毎日息子さんに付き切りの対応となってしまいました。

▽言葉は無く、鍵付きの部屋が無いと何処かへ行ってしまうタイプ。もちろん何人も人が居る場所は落ち着かず、「生活介護事業所」では無理とされ、「同行援護」の事業所でも「2人対応」が必要とされている方です。

▽麦の里では、この息子さんの「日中支援」を、3月から試験的に始めました。

『職員不足』の為、期間限定になる可能性が高いのですが、それでも「行き場の無い重度障害者の居場所づくり」を目指して、少しでも可能性があるならば挑戦してみようという、麦の里の精神で受け入れています。

②上記の②で掲げたパート職員の方が、3月半ばからほとんど現場＝ホームの夜勤業務に入れなくなった以外に、子供の学校がお休みになったこと、保育園の対応等の理由で、日勤すべてお休みとなったパート職員は計3名。勤務時間の短縮や曜日によってお休みとなったパート職員が2～3名出ました。けれどもそれ以外の職員は、「コロナ騒動」の中でも勤務して頂きました。

③その為、「麦の里」とホーム「七色の麦」は通常どおり開所。仲間たちのお休みもほとんど無く、活動を実施することができました。

▽但し、体調を崩された後に「こんな時期なので用心して、自宅で様子を観たい」という方があり、【自粛による自主的な休業】をされる仲間が3名ほどありました。いずれも「電話対応」をさせて頂いています。

④特殊な対策としては、【非常事態宣言】が出てから「公共交通機関」を利用して通所している仲間に対して、感染対策として「麦の里の送迎車両」による送迎を実施しました。（6月半ばまで予定）

（渡邊照）

Ⅱ、仲間たちの日課と活動スタイル

①1日の日課と活動スタイル

朝の会を3グループに分かれて開き、昼の会と帰りの会を合同でやるというスタイルは今年も変わっていません。Aグループでは、一日の予定とともに、一週間の予定なども確認しています。Bグループでは、午前と午後の仕事を選ぶだけでなく、「半日は中仕事」などの約束も定着してきました。Rグループも例年通りの朝の会スタイルを維持しました。
(稲垣)

②個別の取り組み

今年度もAグループ、Bグループ、療護グループに分かれて作業活動や療育活動に取り組んでいます。このような中でも個別の対応は必要です。昨年度に引き続き、マンツーマン対応の必要な仲間にはマンツーマンで対応しています。3名の仲間が職員とマンツーマンで作業活動に取り組んでいます。仲間たちも安定しています。

また、通院補助の対応や車いす、補装具の修理、作成についてもPTの先生と相談しながら取り組んでいます。仲間1人ひとりに必要な支援についてもご本人、ご家族と相談しながら今後も継続していきたいと思います。

体調を崩して入院した仲間が、1年で5名出ました。新年度には70才をむかえる仲間もいます。通院介助は当然のこととして、日常の介助にもいっそうの注意が必要になります。
(村松)

Ⅲ、グループ別 活動のまとめ

◎Aグループまとめ◎

1、全体として

今年度もAグループは、作業中心に活動しています。カネ三やアイシンなどの内職作業、パン工房、炭製品や牛乳パックのリサイクル製品などの自主製品づくりなど、多岐に渡ります。特に内職作業は納期があり、仲間たちは納期を意識しながら作業に取り組んでいます。「何時までに終わらせないと」と仲間たち自身、できたときの達成感を感じながら日々、作業に取り組んでいます。

仲間の会は今年度も定期的にできませんでしたが、レクリエーションを中心に「自分たちで」と自主性を尊重しながら進めてきました。少しずつではありますが、自分たちで計画していくことは、仲間たちにとっても達成感を感じると同時に仲間意識も深まってきているように感じます。さらに来年度は、レクリエーション以外のことでも仲間主体にできるようになっていくことが課題となります。
(村松)

2、作業活動について

今年度もカネ三、愛新陶器の内職作業、並行してパン作業や炭等の自主製品作成に取り組んできました。内職担当をしていた職員が12月で退職となり、引継ぎ等の業務に加え、1月初旬ごろからのウイルス騒動の関係で、内職の配給も止まっている時期が続いています。

その中でも、新たに紹介で頂いたミヤトーのバーコード貼りやシゴトノある暮らしからもシール貼りの内職もいただくことができ、ウイルス等の騒動の見通しが立たない中でも、頂いている内職に仲間たちは精一杯取り組んでくれています。（岩切）

3、その他の活動について

レクリエーションにむけて仲間の会を何度か持つことができ、仲間たちの間で話し合う時間が定着したことが、作業以外での大きなできごとでした。

さらに年度後半になって、療護グループから、「車椅子ダンスの発表の場を持ちたい」という意見が出て、「お楽しみ発表会」に取り組むことになりました。「ふなっしーダンス」「手話コーラス」等の希望がでて早速練習に取りかかり、演し物に参加しない仲間にも、絵を描いて展示発表をしてもらうことができました。

1人1人のやりたいことを尊重しながら、全体の取り組みとしてまとめあげ、当日の会場準備・後片付けなど、みんなで協力して作り上げることができたと思っています。

（稲垣）

◎ B グループまとめ ◎

1、全体として

B グループの全員が、交代で朝の会での司会をするようになりました。いつも大きな声を上げてしまうという理由で玄関にいた仲間も加わるようになり、さらに仲間意識が育ち、賑やかな朝の会となりました。

また、今年度もなるべく作業種目を3種目にしていましたが、体調を崩した仲間のケアのために、年度の半ばから、ほとんど2種目となりました。仲間たちとの会話を大切にしながら、仲間たちの幅が広がってきているように感じています。仲間の会は不定期ですが、レクリエーションの話がメインとなっていました。（古謝）

2、作業活動について

暑い時期を中心に、外仕事を选びたい仲間にも半日は中仕事を选んでもらうようにしました。当初は、何度か朝の会で長時間の話し合いが必要になりましたが、寒い時期を迎えても、またコロナの「自粛」の時期にも、「半分は中仕事」ができるようになってきています。

仕事の中身では、慣れない内職仕事が来てもよく対応できていましたが、年度末、コロナウィルスの流行により、内職仕事が激減して、ボカシの仕事と空き缶の仕事を中心に毎日の仕事を組み立てました。仲間たちも問題なく対応してくれていました。（坂本）

3、その他の活動について

今年度も作業活動以外にレクリエーションを行いました。仲間の会で希望を確認し、行きたいところへ出かけています。今年度はグループだけではなく、仲間の希望に合わせて個別でも出かけました。レクリエーションを糧に仕事に張り合いが出た仲間もいました。

今年の仲間の会の議題はレクリエーションが中心でした。Bグループの仲間たちは、他の人の意見を聞くと、気持ちが揺れ動く仲間も多いです。また、活動がいつもワンパターンになってしまう仲間も多いので、活動の幅を広げていけるように工夫をしていきたいです。

また、年度末の「お楽しみ発表会」で、手話コーラスや車椅子ダンスへの参加に加えて、「いつもやっている仕事の様子の発表」ができ、お母さん方から大きな拍手をいただきました。仲間たちのいい笑顔を引き出すことができています。（大下）

◎療護グループまとめ◎

1、全体として

4月から医療的ケアを必要とする仲間が1名増えました。痰吸引が必要であることから、送迎時には運転手以外に、看護師が同乗することで対応してきました。

今年度は、入浴介助を行っていた女性パート職員が約1ヶ月、けがで休みとなりましたが、入浴介助、着脱介助を行う新しい女性パート職員が増えたことで、男女ともに週2回の入浴を保障することができました。

看護師は2名体制も安定してきており、1名が夜勤の日には、もう1名がケアを行い、看護師が不在な日は少なくなりました。不在の際でも、導尿が必要な仲間については母に来てもらうこともありました。2・3号研修を受けた職員もいるので、今後は体制づくりが必要となります。（柳原）

2、入浴について

療護全体の体制としては今年も月・木が男性、火・金が女性のお風呂の日として週2日ずつ取り組んでいます。さらに、散髪の日などには、入浴メンバーでない仲間も受け入れることができています。

7月から青色の麦ホームがスタートし、9月から七麦ホームに新たに入居したメンバーがでました。入浴をホームでするために、昼の入浴を減らした仲間も出ましたが、療護での日常活動に問題なく参加できています。（谷口）

3、その他の取り組みについて

療護グループに独自の取り組みを毎年取り組んできましたが、今年は、車椅子ダンスに取り組む事ができました。PTを先生にして、隔週の水曜日に半年近く練習を続けました。そして、1月に「わくわく発表会」で、お母さん方の前で発表できました。療護の仲間たちの継続的な取り組みをすることができたのは初めてのことで、仲間たちも職員もよく頑張れたと思います。ダンスを踊るたびに、重度の仲間たちが思い切り笑ってくれたことが、単純ですが、一番よかったことだと思っています。（多良）

4、医療的ケアについて

今年度は、医療的ケアの必要な仲間が1名増えました。新しい仲間については、送迎時にも痰吸引が必要なことから、看護師が同乗して対応しています。看護師の2名体制は安定しています。

また療護グループの仲間だけでなく、Bグループの仲間でも体調を崩したことがきっかけで痰吸引が必要になり、医療的ケアの必要性が高まった1年でした。2・3号研修を受けた職員の体制づくりが変わらず必要となっています。（柳原）

Ⅳ 作業活動について

別紙にまとめました

V 行事・その他の活動

1、全体として

今年度も、もちつき大会を行いました。新年は成人者が居らず、「わくわく発表会」というものを開催する運びとなりました。例会活動では、バザーや募金活動、手作りクリスマスツリーの制作等を行いました。外へ出かけることで、地域との繋がりや、麦の里を知っていただく良い機会となっています。

物資に関しては、長年、麦の会で担当していた部分も含めて、注文の入力から全てを里で引き継ぐ運びとなりました。（古謝）

2、仲間たちの行事・活動

①餅つき大会

今年度も、もち米の寄付を頂くことができ、餅つき大会を開催することができました。前年度と同様今回もお餅配り隊を母組協力の元結成し、A、B、療護グループが各フロアに分かれて、時間をずらし食事をとっています。今年度も明治安田生命さんのボランティアさんが応援に来てくれました。たくさんの種類があるお持ちのメニューも仲間たちと協力して、みんなのもとに行き届くように細かく具材を分けて、配膳してくれてました。

各グループで時間をずらすことで少し合わせる場面もありつつも、食事中は仲間たちも職員もおもちを楽しく食べることができていました。（岩切）

②わくわく発表会

前田理学療法士のご指導で、約半年間、療護では定期的に車椅子ダンスの練習が開かれていました。その発表の場面を叶えるために「わくわく発表会」が計画されました。

当初予定していたものよりも大掛かりとなり“地域交流センターぬくも里”の一室を借りて A グループからは絵画の展示、唄に合わせて手話の発表とダンス、B グループでもダンスや独唱、作業風景を会場の中で観て頂いたりしました。短い期間の中、練習準備、発表することとなりましたが、仲間の家族だけでなく、麦の里に縁のある方々も参加してくださり、結果大盛況で終わりました。来年も開催してほしいとの声もありましたが、成人を祝う会のない年に開催していく事を検討しています。（古謝）

③各種バザー

今年度も昨年度と同様のスタイル（毎年参加するバザー、定期的なバザー）で販売活動をしました。定期的にある、「やすらぎ木曜市」や「せと福祉マルシェ」では平日ということもあり、仲間たちも参加しています。仲間たちは、販売活動をすることで「外に出る機会」ができ、表情もどこか嬉しそうです。また、自分たちが作ったパンや自主製品が売れるとさらなる達成感に繋がっています。

毎年参加しているバザーは、土日の開催でなるべく定例会と重ねて、仲間たちが参加できるようにしていますが、必ずしもそうとはいきません。それでも職員だけの参加ではありますが、地域の方々に麦の里の活動を知ってもらう良い機会となっています。今後も継続していきたい活動となっています。（村松）

④例会・役員活動

今年も麦の会の活動に合わせて、役員会と例会のある土曜日には仲間の活動を作ることができました。

例会活動については、仲間たちの間にも定着しており、午前中にお母さんたちの活動がなくても、一日例会として活動することができていました。新年度にむけては、麦の会の活動と離れて、麦の里が月に一回土曜日に活動する日として定着していくように思われます。

役員会活動については、麦の会の役員のお母さんが役員会をやっている間の活動として取り組み、少人数での活動をつくれることから、トランポリンを出したり、買い物に出たりと、フットワークよく活動できました。（稲垣）

VI、施設運営について

1. 全体として

念願の2番目のグループホーム「青色の麦」が7月にスタートしました。さらに、年内に3泊から4泊に伸ばすこともできています。それにとまなうシフトの変更も、なんとか対応できています。また、職員確保のために、準正職員という職員枠を作り、新年度にはパート職員を3人ほど準正職員になっていただきました。ベテラン正職員の離職者が1名でたり、1名の育児休暇取得者がでて、職員確保には相変わらず苦労していますが、施設の前進をようやく刻めた1年となりました。

2. 利用者数について

麦の里では、利用数は変わらず生活介護で31名、就労継続B型で7名が在籍しています。今年度からは、ホームが増員されて、七色の麦が9名（赤色5名、緑色4名）、青色の麦が5名在籍しています。ただ、長期欠席や入院による欠席が少しずつ出てきており、注意が必要になってきています。

また、年度末のコロナの流行により、他施設のショートステイの利用を断られた仲間を1名、緊急で受け入れています。

3. 職員体制について

正職員が1名育児休暇で1年間休んでいます。また、ベテラン正職員が1名12月に退職しています。入職者が1名あったので減員ではありません。新年度に1名の入職を予定しています。また、職員体制の安定、とりわけ夜勤シフトの安定のために、パート職員を1名正職員に、3名準正職員にする予定です。新たなパート職員が2名増えたこともあり、ようやく少しずつ必要な職員に目処がついてきたところです。

4. 事務部門について

年度当初に2名いた事務職員が、年度当初と年度末にそれぞれ退職されました。勿論2月と4月に1名ずつ事務職員を補充。結局、事務員2名の体制で新年度にのぞむことになります。人員が安定しない中でも、事務職員にやって欲しい業務が整理されてきており、事務職員としての役割は大きくなってきています。

5. 新施設について

第2ホーム青色の麦が6月に開所できました。既存の建物のリフォームで大変に難航しましたが、無事に開所にこぎつけることができた。それ以後今年度の後半は、ホーム2軒のシフト調整と、体制の安定化に追われたと言えます。

第2麦の里については、候補の土地物件を何件か見学に行ったものの、具体的な進展には繋がりませんでした。

とはいえ、法人経営安定の為に、いよいよ第2麦の里の建設が急務の課題として上がってきています。

（渡邊・稲垣）

2019年度 作業別3行総括

◎内職作業◎

○アイシン

今年度もアイシン陶器からお仕事を頂けています。ジェルだしやチェック、梱包の仕事の他にも今年度は新たに倉庫の片づけや荷物の積み卸し、ルームフレグランスの廃棄等のお仕事も頂けました。

A組の仲間では製品の検品、電池の取り外し、廃棄物のチェック等の仕事をしてます。新しい商品の検品でもチェックしあってる仲間たちで、チェックする箇所を確認しあう場面もあり、それぞれ仲間たちが得意な分野にわかれて精一杯取り組んでくれていました。

B組は昨年度に引き続きジェル出しや、ソケット外しをしてきてます。廃棄作業を中心としてB組は取り組んでおり、ソケット外しにはトンカチ等の道具を使って楽しく取り外しに取り組んでいます。

空き瓶の廃棄もアイシン陶器さんが引き取って廃棄してくれることになり、廃棄瓶の納品の仕事も増えました。
(岩切)

○カネ三

招き猫やひな祭りや干支といった陶器の巻き包みと箱詰め以外にも、はがき入れやカタログの訂正シール貼りなど、様々なお仕事を頂いています。細かい作業で、時には違う種類のお仕事が多くなるときもあります。

長年、内職担当を担っていた職員が体調を崩して、休職した際は混乱もありました。その職員が退職するにあたり、パート職員に担当を引き継ぎました。少しずつ、パート職員も慣れてきています。
(大下)

○ミヤトー

アイシン陶器さんからの紹介で、8月から内職を請け負う事になりました。他の内職との兼ね合いもあり、今年度は化粧箱のシール貼り、入っている商品の番号の点打ち、屏風のシール貼りの仕事を引き受けました。同じ仕事が続けてくる事もあり、仲間は少しずつ慣れていっています。種類によっては数人しかできないものもありますが、徐々にできる量も増えつつあります。今後はより良い仕上がり、安定した量を目指していきたいです。
(柳原)

◎自主製品◎

○ぱん工房

今年度は産休に入った職員に代わり、食品に携わる経験が少ない職員が入る事となった為、パンの品質の維持と作り方を覚える事に重点を置いた一年でした。

その為、バザー・イベント等の外への販売する量を大幅に減らして作業を行いました。毎週木曜日、瀬戸市のやすらぎ会館で行われる木曜市の出品も20個前後のパンを出品、売れ残りもあった為調節もして販売を続け、最近ではほぼ完売をする様になりました。「せとぶれんど」との協力によりクッキーの注文や、地元のぬくも里で行われる子育てサロンでのパンの販売も定期的に入るようになりました。

今後はより一層の品質の向上と、作業量を増やしてバザー・イベントで今まで以上のパンの出品をしていきたいです。
(小林)

○パン集計

今年度も例年同様、パン集計は3名の仲間で行いました。集計・PC入力・集金袋の準備など、それぞれの担当分野を、慣れた様子で取り組んでいます。昨年度よりチェック回数を増やし、ミスがないようにしてきました。ミスはなくなってきています。

この作業を通して、仲間たち同士で話し合ったりする様子が伺えます。今後も継続していきたいと考えています。
(村松)

○炭作業

今年度は、昨年度の途中から休職していた職員が復帰したため、昨年度以上に作業回数を増やしてきています。仲間たちは竹取り・炭焼き・加工・製品作りに取り組んでいます。

炭焼き作業は、週に1度取り組んでいます。8月には、炭焼き窯を新しくしました。状態の良い炭ができるとともに1回の炭焼きでできる量も増えました。2018年度に竹をたくさん頂く機会があり、今年度は、竹取りには行きませんでした。そのような中でも、竹はたくさんあり、加工作業もたくさんできました。仲間たちにとっても身体を動かす良い機会となっています。

製品作りに関しては、作業量を増やせたことから仲間たちも回数をこなしてきました。シーラーなどの難しい作業でもできることが増えてきたように感じています。

年度後半には竹も少なくなり、また竹取りに行き、仲間たちの身体を動かす作業として取り組んでいきたいと考えています。また、今年度は、大量注文もあり、昨年度に比べて売上げも上がりました。来年度も物資・バザーでの販売を基本としつつ、大量注文にも備えていきたいと考えています。
(村松)

○カード入れ・爪楊枝入れ

今年度は、爪楊枝入れの新しい商品（なす型、にんじん型など）を作ることを主にしつつ、カード・楊枝入れも「工程を忘れない」ように毎週、取り組んできました。新商品に関しては、仲間たちも何度も取り組んでいくことで少しずつですが、上手にできるようになってきています。一方、カード入れも大量注文が入り、Sサイズも後半はほとんど在庫がない状態となりました。来年度に向けてカード入れの製作もしています。来年度も大量注文に対応できるようにしていくと同時に新商品も製品化できるように精度を上げていきたいと考えています。
(村松)

○ネコミミ

今年度は、昨年度の残りが365匹あったことから、約300匹を作る事を目標にしました。作る個数を例年よりも減らしたため、作業の回数が減りました。そのため少数精鋭になり、工程ごとにそれぞれの仲間の得技を活かした作業となりました。それでも、早めに来年度の分を作り始めて、長期的な作業になっているおかげで、仲間の手つきも安定したものになりました。これまで通り、A・Bグループで作業の分担をして、協力をして完成させる事ができました。

今年度作った物と昨年度の残りの 663 匹のうち、203 匹分が来年に持ち越しになりました。来年度以降、ネコミミの個数については、外注の減少、他作業所の作成個数の増加もあり、作る量の調整が課題となっています。（柳原）

○牛乳パック椅子

今年度は、六角形も正座イスもよく作りました。そのため、A の仲間には六角形を、B の仲間には正座イスを中心に作ってもらいました。

A の仲間たちは、切り開きから、線書き、組み立てまで取り組んでいます。

B の仲間たちは、牛乳パック詰めと組み立ての仕事をしています。チラシの詰め具合が難しいのですが、仲間たちも職員も少しずつ慣れてきました。

注文があるときの不定期的な作業ですが、慣れた様子で取り組んでいます。（大下）

○EMボカシ

まず、ボカシのメインの作業として A 組・B 組で協力する仕込みがあります。B 組の仲間の力量を考慮し、年度頭から個別で仕込む量を 1 箱から半箱に変更しました。それにより、作業はのんびりやりつつも、全体での混ぜ合わせとタル詰め時間を短縮することができています。また、タルを 3 タル追加注文した事で、次回の仕込み時にタルが足りなくなるということも減りました。しかしながら、1 回で仕込む量は実質全体で約 20 箱から約 14 箱ほどに減りました。

その他のボカシ作業としては、生ゴミ園芸、詰め直し、箱出し、乾いたボカシのケース入れ、袋詰めがあります。生ゴミ園芸に関しては新たにスロープの手入れ、園芸が増えました。

次に収益に関しては、2 か月に一度の EM ボカシネットワークの共同購入での発注、コープ愛知様各店舗、ナフコ不二屋瀬戸店様など定期的に変わず注文いただいております。また、毎月固定でボカシを納品・交換させていただいている店舗様の収益は安定しています。

EM 活性液に関しても変わらず注文を頂いています。ただし、ボカシを含め在庫が切れる事もあり、その都度仲間や職員に負担がかかってしまう事がある為、今後はより効率の良い作業方法を考案していきたいと考えております。（坂本・古謝）

◎廃品回収◎

○アルミ缶回収

アルミ缶仕事は、場面ごとに細かく分かれており、回収、洗い、つぶし、袋入れ、納品に分かれています。主に B グループの仲間の仕事になっていますが、内職仕事の無い時など、A グループがたくさんの缶を洗ってくれて助けられています。年度を通して安定して仕事ができおり、この作業量を維持していきたいと考えています。

年度末になり、コロナのため他施設のショートスティに行けなくなった仲間が、このアルミ缶作業だけは取り組めたため、麦の里に何とか安定して通えています。

（稲垣）

○廃品回収

Bグループが主に取り組んでいる作業で、毎日のようにコースを組み、出掛けています。作業量が徐々に上がってきており、また回収先で顔を覚えてもらえる仲間もいて、熱心に取り組んでくれています。Aグループでも、身体を使いたい仲間を中心に順番に出掛けていて、やはり欠かせない作業となっています。加齢や障害の進行などにより身体を使った作業が難しくなっている仲間もあり、注意が必要になってきています。

年度の終わりにはコロナの流行があり、外作業にでかける仲間の人数を制限し、マスクを着用してもらうようにしました。仲間たちも進んで協力してくれています。
(稲垣)

◎その他の作業◎

○物資販売

今年度の冬から、麦の会の取り扱った物資の集計・注文作業が麦の里に移されました。注文した商品の「仕分け作業」は相変わらず麦の会のお母様達にお願いしましたが、その前段階の事務作業は麦の里で行わなければなりません。

今回は初めてと言うことで、パソコン作業はすべて職員が行いましたが、370 部のカタログ等の丁合は仲間として実施しています。頑張ってくれました。

今後少しずつ仲間のできることを増やして行きたいと考えています。
(稲垣)

○物資～学校販売～

今年は冬物資から東農特別支援学校が新たに物資活動に協力してくれるようになりました。作業としてはA組が中心に取り組んでおり、学校物資の注文入力や仕分けを中心に取り組んでもらってます。今年度は冬物資にてB組が仕分けに参加できなかったのですが、来年度にはA、Bともに作業に参加できるように作業を組んでいきたいと思えます。
(岩切)

○かやふきん総括

今年度も木曜市やバザー物資等を中心に販売をしています。仕事はA組、B組ともに作業に入ってもらってます。一対一でも取り組んでもらう場面もあります。折ということは今年度も三か月に一回ほどのペースの作業ですが、仲間たちの中にはかやふきんの折を楽しみにしてくれている人もいて、楽しく今後も取り組んでいきたいです。
(岩切)

2019年度 仲間三行総括

《Aグループ》

R. Kさん

内職やパン集計等の作業を中心に、Aグループで頑張っています。自分から自分の趣味の話や、最近の社会情勢について等、コミュニケーションも積極的に楽しくとっています。仕事の面ではパン集計等で自分がする作業のルーティンが崩れてしまうような事態があると、納得できずに泣いてしまうこと等がありましたが、他の仲間たちと協力し励ましあいながらも、突然の仕事にも対応してくれています。

身体的な面では、足の動きを本人は気にしており、少しの段や重たい荷物などを極力避けることや、「手を貸してください」と助けを自分と言う場面も少しずつ増えてきています。
(岩切)

K. Kさん

内職の作業を中心にAグループで頑張ってくれています。手先がきれいで、自分で効率よくどのようにすれ早く終わるのかを考えて、職員が思いつかないような工程で作業に取り組んだり、他の誰よりもきれいに梱包や製品の仕上げをすることができています。内職関係はほとんどKさんが携わり、完成度においては信頼がかけます。感情の波は激しくパニックもありますが、Kさんの好きなことをしたり見通しがたつと、時間はかかりつつも落ち着いていきます。
(岩切)

S. Kさん

パン作業中心の仲間です。次に行う工程も頭に入れて動いてくれます。最近では、次の仕事の確認も自ら行い積極性も増えました。パンの作業のない火曜日は内職作業をすることが多く、手先が器用なのではがき入れは得意としています。最近では、生ゴミ園芸にもチャレンジしています。

アイゼンメンジャー症候群という病気を持っており、それ故に酸素の数値が低い為、朝・昼・夕の3回、定期的に酸素を吸う時間を設けています。

気持ちの波などで身体の不調を訴えることもありますが、仕事は前向きになって作業を頑張れる様になりました。
(小林)

T. Sさん

昨年同様、歩行の不安定さは変わらずあるため、体調に配慮して作業を行っています。年齢もあるため本人のペースを大切に、日常的には安定して過ごすことができています。お姉さまと2人での生活を見守りつつ、どちらも高齢であるため、本人と一緒に今後のことを考えていく必要があります。
(柳原)

T. Tさん

パン作業中心の仲間です。11月にパンの職員が退職されたこともあり、その職員が行っていた切り分けなどの作業も責任をもって行う様になりました。パンの作業のない火曜日は内職作業をすることが多く、特に細かい作業が好きで得意なため、その能力が発揮されています。トマトの袋のシール張りなど新しい作業にも意欲的にチャレンジしています。

70の仲間、体調面では血圧が非常に高かったり、腕の痛みを訴えることがありました。引き続き、血圧の計測や体調の確認等の管理を毎日行い、必要に応じて通院に付き添う必要もあります。
(小林)

K. Nさん

今年度もマンツーマンでの対応を継続しました。内職作業を中心に取り組んでいます。作業に対しては、より自信を持って取り組んでおり作業を支えにしていると感じられます。また、年度後半に長年、一緒に仕事をしている職員が退職しました。ご本人も信頼している職

員でしたので一時期は不安定になりましたが、自分自身で乗り越えてきています。

(村松)

N. Mさん

力仕事が得意で、誰よりも体力があり、責任感をもって与えられた作業に取り組んでいる。昼休憩時には、変わらずに作業室の掃き掃除をしている。年末に退職した職員については、信頼していた分裏切られたように感じていたのか憤慨していた。一度口を開けば、独自の世界観を語りながら展開し、仲間や職員に見守られている。

(古謝)

K. Mさん

こだわりが強い日があつたりパニックすることもありましたが、前年度に引き続き、なるべく部屋を分けるなどして対応することで比較的落ち着いて作業に取り組んでいます。また、ご本人も自分が落ち着ける場所として和室、ソファが定着しています。

対人関係という面でもコミュニケーションを求めたりということが増えてきています。マンツーマン対応をしていることもあり、ご本人の中でも人間関係の幅の広がりを感じています。

(村松)

N. Mさん

内職作業が中心の仲間ですが、毎週1回パンの作業に入ります。どの作業でも一人でのんびりとできる作業は落ち着いて取り組むことができます。感情コントロールの難しい日は、表情も陰しくなり声も出てしまう為、バランスボールの時間やトイレの時間を長めにとり、気持ちが落ち着いてから作業に入ってもらいます。

笑顔が出ていても疲れてくるとパニックする場合もある為、早めに休憩を取るなどして注意をしています。最近パンの作業でも、ある程度落ち着くと休憩に行っていいたかを確認してくれます。グループホームが始まったこともあり、まだ気持ちの中で落ち着いていない部分もあるようです。

(小林)

Y. Yさん

パン作業中心の仲間です。新しく入ってくる職員や、最近パンの作業にヘルプの職員が入ってくることになり、教えようとする気持ちが強くなってきて、前向きな気持ちで作業に取り組んでいます。

しかし、話したいことが伝わらず悩んだり、胃腸に痛みがあると体の不調を訴える事があり、ふさぎ込んでいる姿も見受けられました。気持ちの面で寄り添い、細かなフォローや見守りが必要です。始業前から準備をしていたり、慣れない仕事で上手くいかない場合でも続けることで身体が覚えて、次回もチャレンジしたいという自信に繋がっています。

グループホームが始まり、ここでの自信は仲間の食事づくり等にも活かされています。反面、不満や不安もあり、まだ慣れない気持ちが作業に出ることもあります。

(小林)

《Bグループ》

E. Iさん

一昨年から持ち歩いていた文字盤は、いつの間にか見かけなくなった。会話でのやりとりは難しくなり、文字盤や絵を描いてもらって、本人の意思確認をとっている。

本人の意思とは別に、声を掛けても起きられない時には、寝たまま作業場に連れられていくことが定着しており、目を覚ますと、作業場の雰囲気や飲み込まれているのか、熱心に作業に取り組んでいる姿がよくみられる。

(古謝)

A. Uさん

初めて廃品回収で一緒になった時、車内で隣同士に座りました。声かけても他の職員さんを通して話をしているのがとても印象的でした。仕事では一緒に作業すると「よいしょ！よいしょ！」と可愛らしい声が聞こえて、大きな段ボールや重たい新聞紙など運んでくれます。

とても人見知りですが、仕事に入ると一生懸命に頑張ってくれました。今では遠くにいる私を捕まえて笑顔で接してくれます。

買い物では会計係に手を挙げセルフレジのタッチパネルなど新しいことにチャレンジしています。
(山口)

M. Kさん

ぼかしの袋詰め作業でぼかしを詰めるのにペットボトル使いますがとても指先が器用でピッタリと決められたグラム数を入れてくま。まるでセンサーがついたようにピッタリ賞を目指して作業をされています。

人の干支をよく覚えていて、毎年誰かが年男、年女か話しています。記憶力バツグン。あと、くしゃみすると誰がくしゃみしたか当てます。とても驚きます。

歌もとても上手で綺麗な声でメロディが奏でられます。人を癒す心を持っているので人との出会いを大切にしてみっとたくさんの人と関わる仕事に挑戦してほしいです。
(山口)

S. Kさん

廃品回収を中心に外仕事に取り組んでいる。ボカシの仕込みの時間や、昼食後の休憩時間にも廃品にでかけてもらうこともある。とはいえ、本人はいやがることもなくでかけてくれている。新しい職員との仕事も少しずつではあるができるようになっていく。

年度半ばに、手にほとんど力が入らなくなり、急に物が持てなくなる時があった。通院してもらったが、原因は分からず、2週間ほどでまた元に戻っている。

(稲垣)

Y. Kさん

7月にホームに入居し、生活環境が一変することから、日中の施設でも安定しないか心配されていた。けれど、心配されたほどではなく、ホームも日中でも生活は安定している。

相変わらず、言葉がよく伸びており、ホームでの言葉も加わって、たくさんのお話をしてくれる。「ふかふかふとん」「パインヨーグルト」等はいまのお気に入りの様子。

(稲垣)

K. Kさん

ボカシを口に入れる癖はかわらない。こちらでも強くめづに、優しく目の前の作業を促すにとどめている。ボカシ以外の作業では、よく安定しており、軍手等をいやがる回数も減っている。また、失禁等はほとんど無くなっており、トイレにも行くかどうか、本人に任せていることが多い。

(稲垣)

M. Kさん

外作業を中心に選んで作業をしています。片手で運びになりますが、その中でも自分のできる精一杯をやってきています。仕事の関係等で中作業をお願いをする場面もありましたが、時間をかけて話し合うことで納得をしてやってきています。他の仲間との作業の譲り合いの場面でも譲ってくれる場面もありました。

(岩切)

K. Kさん

6月に肺炎とシャント異常により、救急車で運ばれ入院しました。8月に退院できるまで回復し、麦の里にも通所出来るまでになりましたが、筋力低下と誤嚥が見られ、水分・食事の形態が変わりました。除々に1日作業ができるまでになり、食事量も年度後半には増やす

ことができます。

(友行)

A. Sさん

いつもはシーラーとニュース入れをしてくれます。手先が器用に動くため日付や数字を書いてくれますシール貼りも綺麗に貼れます。

心優しい彼女は仲間の手提げ袋を毎日帰りに玄関先まで届けてくれます。あと仲間と職員さんにお茶をついでくれるお手伝いをしてくれます。

新しい事にチャレンジしたいとやる気モードが入るので職員さんと考えてアイデアを出して作業します。これから、もそういう気持ちを大切にしていきたいです。

(山口)

A. Mさん

七麦の利用が始まったり、ご自宅の引越しも重なって環境が変わったせいか、急に泣き始めたり、怒ったりすることが増えました。そんな時は、肩たたきや散歩などで気持ちを落ち着かせています。

室内作業が多くなり、外作業が以前に比べて減りました。室内作業も落ち着いてできていますが、阿衣子さん自身は身体を動かしたい様子があり、外へ行きたいとアピールすることもしばしばあります。他の仲間たちとの兼ね合いもありますが、可能な限りは外の活動にも積極的に出ていきたいと思います。

(大下)

T. Mさん

Bグループの中では、一番のベテランさんです。順調に仕事に取り組み、9月にはグループホームに入居しましたが生活が乱れることはありませんでした。けれども、冬になり、肺炎から入院し、復帰してからも、水分にとろみをつけてから飲んでもらうようになりました。加齢を心配する年齢ではないのですが、注意が必要になってきています。

(稲垣)

K. Yさん

朝の会ではほぼ毎日の参加と、いつの間にか司会を務めるようにもなっている。年度後半に、肺に水が溜まったということで利尿剤を服薬することとなり、失禁が増えパットを装着して麦で過ごしている。そのことから、午前午後1回ずつだったトイレへの声掛けは、1時間に1回はトイレに誘うようになった。半日は中作業も定着し、皆の輪の中で、最後まで作業に取り組む集中力もついた。外作業でも「降りんわ」と意固地になることも減り、作業への自信もついたのか、降りられないということもほとんど無くなり、作業に取り組んでいる。

(古謝)

《療護》

J. Iさん

昨年度の春以降、発作が多いなど、体調が安定せず、今年度は1度も通所できませんでした。

(柳原)

S. Kさん

今年度の4月から新しく仲間になりました。誤嚥や熱など体調を崩したことによる入院で休むこともありましたが、それ以外は安定して過ごすことができました。最初の頃は緊張していた様子でしたが、最近では慣れてきたのか、いろんな表情が出てくるようになりました。トイレについては、学校時代はなかなか成功しなかった便器に座る取り組みを行い、少しずつ成功できる回数が増えています。体調を見つつ、落ち着いている時には、様々な活動を増やしていきたいです。

(柳原)

Y. Kさん

今年度は、6月と12月に肺炎で入院することがありました。12月の入院では、呼吸状態が悪くなり、1ヶ月の長期入院でした。退院後は、積極的な体位交換やオキシメーターでの計測をしながら麦の里での活動に取り組んでいます。
(友行)

T. Kさん

今年度は、昨年度と同様にトイレでの排尿ができています。体重維持もできており、安定して麦の里での活動ができています。手型、お絵かきなどご本人の好きな活動にも取り組んでいることで手がよく動いています。継続していききたい活動となっています。
(友行)

E. Kさん

歩く取り組みを続けてきたおかげか、足腰がしっかりしてきて、支えがなくても立ち上がることや、歩いていくことが増えてきました。また職員だけでなく、仲間に対しての興味が出てきて、近づいていたり、スキンシップをとったりと、人とのコミュニケーションが伸びてきたようです。今後は歩く取り組みを継続しつつ、なかなか使うことの難しい手の平の動きも見えていきたいです。
(柳原)

T. Sさん

風邪などで体調を崩して、お休みをする事が数回ありましたが、元気に通う事ができました。移動は自分で四つ這いで歩いていきますが、以前より足の運びがゆっくりになってきました。体力の低下なども心配されていますが、作業室の紙ちぎり作業や和室でのマクラ遊びなど、自分の興味のある事には、自分で積極的に向かっていきます。日々の体調を見ながら、自分で歩くことを大切にしたいです。
(大下)

M. Tさん

ご飯の食べをよくするために、足の指にクッションを入れていましたが、6月頃から足のむくみが気になるようになり、クッションを挟む取り組みはやめました。食べる事は大好きでご飯を楽しみにしているようですが、体調によって眠ってしまったり、ゼロゼロしてしまって食べられないときには注入をして補食をしています。日頃から、ゼロゼロする事がありますが、両側臥位とうつぶせ寝を取り入れながら、自分で自己排痰ができるように取り組んでいます。

1月にインフルエンザにかかり、治って麦に来ましたが、その後すぐに肺炎になり入院しました。ランポリンや散歩、ボーリングといった活動は好きで「やりたい！」と積極的に意思表示されます。今後も体調と相談しつつ楽しめる活動を行っていききたいです。
(大下)

N. Tさん

大きな変化は無い年。ホームの生活を5年重ねてきたお陰なのか、食事や排便も安定。希に「食べない」という事はあるが、以前のように「4～5日ずっと食べず・寝ずで…」といった事は無く概ね健康で過ごせた。ただ「水分摂取量が少ない」課題も変わらずある。虫歯の治療と口腔ケアの為、市内の歯科へ通っていたが、冬以降は愛知県小牧市の歯科へ転院。

2019年度は「車椅子ダンス」や「図書館の紙芝居利用」といった今までとは違ったアクティブな活動に療護グループが挑戦。日中の活動面では、言葉のない奈穂さんが声を出して楽しめる新たな活動が増えて、今までとは少し違った1年が過ごせたと思われる。今後もぜひ続けて欲しい。
(渡邊テル)

T. Nさん

体調も安定しており、長期欠席のない安定した一年でした。ですが、新年度に入り、肺炎を起こし長期に入院しています。重度の仲間の難しさを感じています。

唇をかんでしまうこともだいぶ減りましたし、取り組みの中で大好きな仲間や職員もできました。できることをもっと増やしていけるように取り組みたいです。

(稲垣)

G. Hさん

9月に待望のホーム入居をはたしました。生活リズムの乱れを心配しましたが、全くそんなことはなく安定しています。ご家族の病気の際には、土日でもホームで過ごすこともできました。療護の仲間でも、2番目のベテランの仲間ですが、よく落ち着いてくれています。

(稲垣)

R. Yさん

2018年度の後半に左肩を脱臼したことから、お休みがずっと続いていました。今年度半ばに、こばと学園の職員とそうように手引きして歩くか話し合ったり、申し送りを密にするために、運転手だけではなく、職員も添乗して、直接、こばとの職員と申し送りをするを条件に、第二、第三火曜日に麦の里を利用することになりました。

主に入浴の日に麦に来ています。お風呂は大好きで表情よく入浴されています。しかし、コロナウイルスが流行してからは、またお休みが続いています。

(大下)

R. Wさん

今年度は、食後のお昼寝は定着していきっています。お昼寝や音楽を聴いて気分転換することで自傷行為も少なくなってきた印象です。また、床に降りる取り組みを継続してきました。昨年同様に床に降りても立ちたがらないのですが、トイレの移乗の際に立ってくれることが多くなってきました。

(友行)

2019(R1)年度 事業総括

共同生活援助事業 七色の麦

1、仲間ひとり1人の生活スタイルの確立

- ① 新たに青色の麦を開所し、赤・緑・青色の麦の仲間の個々の生活リズムを安定させたい

◎今年度、七色の麦は3名の仲間が10月より入所した。体調面での不安はあるものの体験利用をしてきた経験からか少しずつ安定してきている。特に新たなメンバーに関しては、「食事・排泄・入浴・睡眠」といった基本的な部分の生活リズムが安定しつつある。

◎青色の麦は6月後半に開所した。緑色の麦から2名が入り、新たに3名の仲間がメンバーとなった。まずは、「食事・排泄・入浴・睡眠」といった生活の基本的な部分に慣れてくことからスタートした。七色の麦から移動してきたメンバーは、これまでの七色の麦での経験から安定してきている。また、新しく入居した仲間もこれまでの体験利用の経験から比較的、安定している。一方で、「食事・排泄・入浴・睡眠」以外の部分について集団としても個々としても課題となってくる。

- ② 青色の麦も含めて3泊4日を維持する。

◎七色の麦は、3名の仲間が新たにメンバーとして7月下旬より、加わった。仲間たちの様子を見ながら10月下旬には全員が3泊4日になった。

◎青色の麦は、6月下旬より2泊3日でスタートした仲間が2名いたが、8月初旬には全員が3泊4日となった。さらに12月中旬より4泊5日に挑戦することとなった。

2、集団生活の中で「ルール」作り

- ① 仲間同士の関係を深めていくことを大事にしていく

◎今年度も仲間同士の関係が深まっていくことを課題の1つとして取り組んできた。日々の生活の中で仲間たちが声をかけあったり、話し合いを持ったりしてきた。

◎赤・緑色の麦においては、メンバーの入れ替わりがある中で新たなメンバーも含め、仲間意識は深まってきている。仲間同士で話しかけあうということが

新メンバーを巻き込んで展開されている。一方で、言葉がない仲間が多い中で、仲間同士の関係を深めていくには、「一緒にできるモノやコト」の必要性を感じた。

◎青色の麦に関しては、自室で過ごすことが多い中で、動きの良い仲間が自室にいる仲間に声を掛けたりする場面が多々みられた。新たなメンバーとの生活の中で、仲間意識が育まれつつあると感じた。一方で、仲間同士の関係性を深めていくのに仲間たちが共同生活の中で役割を持つことが大切だと感じた。

② 集団の中にも仲間の「個」の部分に関しても大事にしていく

◎赤・緑色の麦では、今まで培ってきた「話し合い」を大切にしている。年度半ば以降、新たなメンバーを迎え入れて再スタートした赤・緑色の麦では、言葉のない仲間が増えた。その中では、主張が言える仲間が中心になってしまふ。職員を介しながら仲間たちで「話し合う」ということを意識していきたい。

◎青色の麦は、まず、生活リズムを作っていくことを大事にしてきた。そのような中で部屋でCDを聞きたい、勉強したいなど仲間たち食事・睡眠・入浴以外の部分では、自分のやりたいことをしてもらうことで生活リズムの安定ができてきた。少しずつ慣れてきた中で、「自分のほしいものを買いたい」という仲間も出てきた。個人個人でしたいことは様々であるが、動きの良い仲間たちなので、余暇活動の充実という形で大切にしていきたい。

3、体験利用の仲間たちの定期的な受け入れ

① 体験利用の仲間たちの生活リズムを安定させていく

◎今年度は、青色の麦の開所、赤・緑色の麦の新しいメンバーの受け入れがあり、体験利用は6月より中止している。定期的に受け入れてきたことで徐々に安定してきたところであったので非常に残念であったが、新しいメンバーの生活リズムが安定してきたところでの再開を目指したい。

4、職員体制の確立と業務の確立

① 連絡体制の確立

◎赤・緑色の麦、青色の麦ともに時間帯をずらしてミーティングを行っている。一方で毎日の記録はより簡素化してきている。ミーティングの方法を検討するにあたって記録を使つての申し送りについても検討していきたい。

② 職員確保

◎青色の麦を開所でき、4泊5日にすることができた。一方で、赤・緑色の麦は、新たなメンバーを迎え入れ、遅番、早番職員を増やし、3泊4日の継続はできたが4泊5日は実現できなかった。女性の夜勤者、男性の遅番、早番のできる職員の確保をし、4泊5日を実現したい。

5、品野1丁目のグループホーム（青色の麦）の年内開所を目指す

◎女性で夜勤のできるパート職員を青色の麦に配置することができたこと。
赤・緑色の麦に遅番・早番を増員できたことで、「青色の麦」の開所が6月に実現できた。

2019年度 ホーム総括文章

【七色の麦・青色の麦レギュラー】

K. Kさん

ホームに入って5年近く、3泊4日ホームで生活するようになって丸2年が経ち、すっかりメンバーの1員としてリラックス。元気で生活しています。

できることも少しずつですが着実に増えてきています。排便・排尿は、夜中であっても、自分が行きたい時に、自分で這って移動して実現しています。さらに前後の衣類の着脱も、時には自分でやりきる場面が少しずつ増えているようです。

そのことが、本人にも自信となっていて、誉め上手な職員の時には、さらに良い笑顔で過ごせている様子。彼のペースで生活の流れができている証だと捉えています。
(渡邊テル)

K. Nさん

グループホームには入ったものの、5年間、まだ1回も宿泊ができない仲間です。

それでも面白い物で、お母様や周囲の関係者が『泊まることをあきらめて』、泊まって欲しいというプレッシャーが減ったせいか？今年度は、自分の部屋に居る時間が増えてきているのです。彼は「自分の部屋」で確実にリラックスする時間を増やしているのです。入浴も一時的に入れない時期がありましたが、今は入って帰るのが日課になっています。彼のプレッシャー感度はそれ程に高いと言わなければならないのか。あるいはお母様が5年掛かってようやく言わなくなった、というべきか。
(渡邊テル)

七色の麦での入浴が復活しました。お風呂にも職員と楽しく入っています。また、夕方の活動も出掛けることを楽しみにしています。

今年度は、青色の麦の開所に伴い、職員が増えた中でも安定して七色の麦に来ています。看護師が夜勤に入る日は、自宅に帰ることなく導尿し、過ごさせています。また、年度後半より部屋ですぐすことも増えてきており、「自分の部屋＝落ち着ける場所」となっていけるようにアプローチしていきたいと考えています。次のステップに向けてどうしていくか課題となっています。
(友行)

A. Mさん

今年度、体験からレギュラーメンバーとなり、補食のバナナも持ってくることは無く、ホームの食事をほとんど完食しています。ただ朝は食欲がないのか、朝食を自発的に食べようとせず、職員の介助が必要となってきた。

余暇の時間をどう過ごしたいかと課題はあるが、軍手を持参しはめて遊んでいる。手を目の前でヒラヒラかざしたりと落ち着いて過ごせている。
(古謝)

T. Mさん

今年度からレギュラーメンバーになり睡眠や排便等のリズムも少しずつ出来ていた中で、年度末には肺炎の入院もあり、利用することができない日が続きました。

3月からは、看護師が在中する際には宿泊をし、体力の回復や七色でのゆったりとした時間を少しずつ、本人の体調と相談しながら確立していきたいです。
(岩切)

A. Uさん

排便のタイミングで夜中に起きる回数が増える為、排便のリズムが課題。今年度も漢方薬の使い方を工夫してトイレの回数は随分安定した感があります。アレルギーの「痒み」の訴えも課題になっていますが、お肌の保湿ケアと合わせて、そちらはまだ工夫が必要な様子。

ホームでの生活も丸5年を経て、元気よく生活してくれています。但し今年度の冬はインフルエンザに罹り、珍しくお休みをされました。
(渡邊テル)

S. Kさん

食パンの焼きやお箸の配膳等、お手伝いを自発的にする場面も増えてきました。自分のぬいぐるみのお世話は、手作りでオムツを作成して介助していて、職員の様子をよく見て、介助の真似をすることが増えてきました。（岩切）

T. Sさん

睡眠については日によって時間の長さは異なるものの、寝不足で体調を崩すということはありませんでした。自分の部屋で、お気に入りのおもちゃで遊んで過ごすことが多いですが、ごはんの時間になると自分で居間の方へ出てくることもあり、居間で他の仲間ともリラックスして過ごし、安定した生活ができています。（柳原）

N. Tさん

季節の変わり目や体調によって、食べられない日や眠れない日もありますが、そんな時は、奈穂さんの好きな食べ物や眠剤を利用して対応しました。職員自身も段々と、奈穂さんの不調なときの対応に慣れてきています。排便については、下剤を使用することで、定期的にお通じを促しています。

夕方の活動時には自分から仲間の輪の中に入りについたり、職員を誘って散歩したりして過ごしています。（大下）

G. Hさん

2019 年度 10 月頃からレギュラーとして入居。体験利用を積み重ねてきた為、早い段階で「3泊4日」を実現。予想以上に慣れるのも早く、安定して生活しています。

てんかん発作が全く無い日もありますが、逆に1日に数回有る場合もあります。宿泊日数を重ねる毎に、職員達がその対応に慣れてきていて、「発作がある」事がある意味当たり前の仲間なのだと、発作についても順応できています。

父親の病気入院等があり、家族が大変な時にはホームでの対応が必須な方です。家族の高齢化の中で、ホームが如何に重要な場所であるか、あらためて教えられるケースでした。（渡邊テル）

Y. Kさん

今年度は3泊4日で頑張って青麦に登所してくれました。青麦の玄関をくぐるやいなや「へや!」「おふとん!」というほどに青麦の自室にあるお布団が大好きで、終始おふとんに横になってリラックスして過ごしています。反面、起きて動くという時間は少ない傾向。そのため、階段を利用しての踏み台昇降や、日が高い時期には公園へいったり散歩に行くという取り組みもしています。（小木曽）

M. Kさん

七麦から青麦へ引っ越して、環境の違いから色々と戸惑うことが懸念されていましたが、しかし、自室から居間、トイレに洗面所はすんなりと場所を覚え、早い段階で自分で移動することができるようになりました。また、他の仲間ともしりとりやトランプをして盛り上がるなど楽しく過ごすことができています。

七麦でもよくやっていた手伝いは青麦でも同じように取り組んでいて、テーブル拭きや野菜の皮むきなどは快く引き受けてくれます。（小木曽）

T. Tさん

七麦にいた頃も、朝食のパンを焼くなどの手伝いを自分から進んでやってくれていましたが、青麦では更にやってくれることが増えていきます。自分のものと一緒に台拭きなどを洗濯して、更に干す。夕食の調理や朝食の下ごしらえ。加えて、調理補助の職員さんがこれないときは、一肌脱いでほとんど全部調理してくれる日もありました。

『みんなで協力してやっていくホームなんだ』と考えてくれているのだと思います。
(小木曾)

N. Mさん

体験利用は問題なくできていましたが、青麦での連泊がうまくいくのか？と心配していました。ですが、いざ入居してみれば、落ち着いて毎日を過ごせていました。連休後なども大きなパニックを起こすことなく登所しています。
生活の場面では、毎朝自室や洗面所前のスペースの掃除に欠かさず取り組む等、自分の役割だと認識していくつかの家事に参加できました。直哉さんのペースで、少しずつできることが増えていくよう、努めたいです。
(小木曾)

Y. Yさん

待ち望んだ青麦。入居してから「俺、掃除できるようになりたいからさ」「朝、ごはん作ります」と、やる気のある言葉とともに実際に行動。勇樹さんの声と動きが周囲の仲間を引っ張ってくれました。とても頑張った1年でした。
また、本人の希望もあり、お金の管理についても挑戦が始まっています。買い物後にお小遣い帳をつけていますが、中々理解には至らず。少しずつ、学習しています。
(小木曾)

【七色の麦 体験利用】

Y. Kさん

療の吸引が必要になることがあるので、看護師が夜勤に入れる日を狙って、体験利用を使っている。本人は落ち着いて泊まることができている。七色の麦の拡充にとともに、彼も体験利用を遠慮してもらっている。
(稲垣)

R. Kさん

利用回数を重ねるたびに、上手になっていることがいくつかあります。その内の1つがシーツ掛けです。基本的に、誰かと一緒にシーツを掛けることが多い凌さんでしたが、4月に利用した際には職員や他の利用者の手を借りずシーツ付けをやり遂げました。最後まで一人で頑張った凌さんを、その場にいた職員皆が褒めたたえていました。
(小木曾)

K. Kさん

6月に長期の入院があり、その後も体調が回復せず、体験利用を一回しか使えなかった。本人の健康の安定を待って、再会したい。
(稲垣)

E. Kさん

体験利用がお休みになったあとは、緊急時などに七麦を利用しています。
久しぶりの利用でも慣れた様子で、リラックスして過ごしています。食事、睡眠ともに安定して過ごせており、職員とスキンシップを取ることがとても楽しそうです。
(大下)

A. Sさん

今年度は4月、5月と2回のみ利用。本人は体験利用を楽しみに、買い物も希望して出掛けている。翌日、麦の里ではホームの疲れがみられる。入浴は麦の里で済ませ、清拭のみ。車椅子上での足上げや、車椅子を降り、居間のマット上で皆とお喋りを楽しんでいる。
(古謝)

M. Tさん

不定期の体験や緊急時に利用しています。七麦の環境にもだいぶ慣れてきたようで、他の仲間や職員とのやり取りを楽しんで、リラックスしています。食事は体調や疲れにもよりますが、経口で食べることができ、食べられなかったときには注入をしています。睡眠も安定して取ることができています。（柳原）

R. Wさん

今年度は体験利用を使っていない。シングルの家庭であり、その保護者の入院等もあったが、他施設のショートステイを利用して乗り切っている。今後とも宿泊施設利用の必要度は高いので、相談にのっていく。（稲垣）

麦の里 2019（H31）年度事業総括（案）

2020（R1）年度事業計画（案）

I. 職員体制について

**〔1〕 日中活動の施設とホームの安定、青色の麦の開所に向けて
兼務体制をさらに拡充させたい**

《2019年度総括》

- ① 11月に正職員が1名入職したが、12月に10年勤めてきた正職員が1名退職した。
- ② 6月に青色の麦を開所することができた。青色の麦は、12月より4泊5日にすることができた。青色の麦の開所に伴い、赤・緑色の麦から2名の仲間が青色の麦に移り、赤・緑色の麦には7月から新たに3名の仲間が入所した。このことから遅番職員の配置を増やすこととなり、特に男性正職員の遅番に入る回数が増えることとなり負担が増えた。一方、女性の遅番職員は、新たに日中の職員で遅番ができる職員が1名増えた。女性職員の負担は軽減してきている。
- ③ 年度後半に早番のできるパート職員が1名退職したことで正職員の負担は増えた。
- ④ 遅番担当の職員は遅番の配置が増えたこともあり、午前からの出勤というのが増えた。
- ⑤ 青色の麦の開所、赤・緑色の麦の新たな仲間の受入れのことから体験利用に関しては安定するまで中止している。どうしてもという場合には応相談し、受入れている。
- ⑥ 看護師の確保や喀痰吸引第三号研修取得者が業務に入る体形は整備できていない。
- ⑦ ホーム専属の職員が1名増えた。
- ⑧ 職員確保のための人材紹介報奨金制度を導入した。
- ⑨ 正職員の人数が少ない日は、パート職員と仲間以外作業に出かける機会を作った。

《2020年度 方針案》

○日中活動の施設とホームの安定、兼務体制を拡充していく

【短期目標】

- ① 遅番、早番できる職員の確保をしていきたい。ホームページをリニューアルしたことで少しずつ募集が出始めているので、継続していきたい。また、人材紹介報奨制度も導入したので活用していきたい
- ② 引き続き、日勤の職員で遅番、早番のできる職員を増やしていく。
- ③ 正職員の負担軽減のために、少しずつパート職員にも、正職員無しでも仲間と一緒に仕事をできる機会を作っていく。

【中長期目標】

- ① 喀痰吸引第二号、第三号の資格取得者を増やしていく。
- ② ホーム専属の職員を増やしていく。

【2】青色の麦の早期開所に向けて職員を増やしたい

《2019年度総括》

- ① 11月に正職員として女性1名が入職。しかし、12月に女性正職員1名が退職したため、正職員の増員とはいかなかった。
- ② 職員確保の一環としてホームページをリニューアルした。
- ③ 七色の麦の4泊5日は実現できていないが、昨年度より夜勤のできる女性パートが1名増えたこと、赤・緑色の麦に夜勤に入る正職員を増やしたことで青色の麦を開所することができた。
- ④ 就職フェアには参加しなかった。

《2020年度方針案》

○ **新しい施設のために正職員の増員をしていきたい**

【短期目標】

- ① 職員増員のため人材紹介報奨制度も導入したので活用していきたい。
- ② 就職フェアに積極的に参加していく。
- ③ 準正職員という新たな立場を造設して、正職員としての採用の幅を広げた。

【中長期目標】

- ① 第2施設、七色の麦の4泊5日を実現していくために、職員を増やしていきたい。

【3】職員のスキルアップのために職員研修を積極的に行いたい

《2019年度総括》

- ① 研修の情報に関しては、事前提示をして参加希望はあったが、行事やコロナウィルス感染拡大防止対策と重なることもあり、参加できた研修は少なかった。一方で、参加した研修は正職員のみならずパート職員の参加も見られた。
- ② 今年度、強度行動障害の研修参加はなかった。
- ③ 年度後半に1名、サービス管理責任者の研修参加をした。
- ④ 今年度は、正職員1名が介護福祉士の資格取得を目指している。

《2020年度方針案》

○ **職員研修に積極的に出してスキルアップしていく。**

【短期目標】

- ① 今後も研修の情報を事前に提示していく。たくさんの職員が参加できるように積極的に促していく。

- ② 研修会や他施設の見学会、他施設との交流会を通して、それぞれの職員が情報を入手していく。
- ③ 強度行動障害の研修は、積極的に参加していく。
- ④ サービス管理責任者の資格取得者を増やす。

【中長期目標】

- ① 第二号、第三号研修、介護福祉士、社会福祉士などの資格取得を応援していく。

【4】 今後に向けて業務体系を変えていく

《2019年度総括》

- ① 今年度は、会議がある、ないに関わらずA、B、療護に分かれてミーティングを行うことで時間短縮を図った。一方で、送迎や遅番等で職員が揃わないことが多く、情報共有ができていないことが多かった。
- ② 職員ミーティングの在り方を検討できなかった。
- ③ 月曜～水曜は遅番や夜勤で職員が揃わないため、木曜日の会議で仲間の情報交換をして職員間で共有してきたが、年度後半は青色の麦が4泊5日になったことから開催を金曜日にした。
- ④ 今年度は、七色の麦の会議を行えなかった。
- ⑤ 年度後半に内職担当の正職員が退職となった。それに伴って、パート職員に内職担当として業務にあたってもらったこととなった。

《2020年度方針案》

○今後に向けて業務体系を変えていく

【短期目標】

- ① ミーティングの在り方、方法の検討をしていく。七色の麦についても同様に検討していく。
- ② 七色の麦の会議の開催。

【中長期目標】

- ① 第2麦の里の開所を目指して準備をしていく。

Ⅱ. 日中活動の中身を見直そう

【1】 ☆Aグループは、作業中心としつつ仲間たちによる

自主的な活動ができるようにしていく

☆Bグループは、作業を通して仲間たちの自我の発達に取り組む

《2019年度総括》

- ① 今年度もAグループは、内職、自主製品の作成、パン作業など仕事中心のスタイルは継続してきた。そのような中でもレクリエーションは仲間たち中心で計画していくことができた。
- ② 12月に内職担当の職員が退職となった。現状の正職員の負担を考え、1月以降、パート職員が内職担当になり、仲間たちも気持ちを新たにに取り組んでいる。
- ③ きょうされん愛知大会にAグループの仲間たちが希望者が数名、グループワークに参加した。
- ④ 今年度のBグループの作業は、七色の麦との兼務体制の中で作業を3つに分けることが難しい日が多かった。
- ⑤ Bグループの仲間たちのレクリエーションは、それぞれ個別のやりたいことを汲み取ることとは難しかったが、そのような中でも個々のやりたいことができた。
- ⑥ A・Bグループともに仲間の会は定期開催できなかった。
- ⑦ 避難訓練は、年度後半に1度取り組んだ。

《2020年度方針案》

○作業の活動を見直してみよう

☆Aグループは、作業中心としつつ仲間たちによる

自主的な活動ができるようにしていく

☆Bグループは、少しずつ自我が育ってきているので、

それを大事にしながら、作業に取り組む。

【短期目標】

- ① 仲間の会の定期的な開催
- ② 避難訓練を年に2回行えるようにしていく
- ③ レクリエーションを継続する。
- ④ A・Bグループ問わず、仲間たちの日々の様子をよく見ていき、職員間で共有していく。

【中長期目標】

- ① 仲間の会、または個別にでも話し合う機会を持って、仲間たちの自主性を育てたい。

【2】重度重複の仲間たちの活動を考えよう

☆日々の業務を安定させる中で計画的に取り組みを作っていく

《2019年度総括》

- ① 入浴のない水曜日の取り組みについては、車いすダンスを中心に活動的に行えている。
- ② 昨年度より続けている「紙芝居を借りにいく」ことや、近くの公園に暖かい時期に散歩に行くなど外に行く機会を持つことができた。
- ③ レクリエーションがなかなかできない中で、車いすダンスの発表をする機会として楽しみ発表会を行った。仲間たちも繰り返し練習することで覚え、楽しんでいた。
- ④ 療護のための職員研修・見学の計画はしていたが、行事と重なり行けなかった。
- ⑤ 看護師の確保や喀痰吸引第三号研修取得者が業務に入る体形は整備できていない。

《2020年度方針案》

○重度重複の仲間たちの活動を考えよう

日々の業務を安定させる中で計画的に取り組みを作っていく

【短期目標】

- ① その日の仲間の体調や気候に応じて活動内容は相談していくが、入浴のない水曜日の取り組みを計画的に行う。
- ② 1年の取り組みを計画していく。
- ③ 積極的に職員研修に参加する。他施設の見学にも積極的に出掛ける。
- ④ 看護師の夜勤に伴い、看護師をもう1名確保する、また、第三号研修取得者が実際にできるように整備する。

【中長期目標】

- ① 医ケアの仲間たちの急な宿泊にも対応できるように、第二号、第三号研修の資格取得者を増やしていく。

【3】自分の生活について考えよう

☆作業以外の場面での配慮が必要な仲間が多くでてきている。

仲間たちと話し合いながら、作業以外のことにも取り組んでいく

《2019年度総括》

- ① 仲間の会は定期的な開催はできなかった。仕事の話とレクの話が主だった。
- ② Aグループに専属で入っていた職員が退職し、個別の悩みや相談を仲間たちが話せる機会が減った。
- ③ 今年度もPTの先生とも相談しながらリハビリをしている。リハビリの他にも、補装具、車いすの作り直しをしている。
- ④ 仲間の通院の付き添いに対応した。
- ⑤ ミーティングの時間に全員がなかなか揃わず、職員間で仲間たちの身体のことや生活面の問題を全員で共有できなかった。

《2020年度方針案》

【短期目標】

- ① 仲間の会を定期的で開催して、話し合う機会を作る。内容によっては、個別でも話し合っていく。
- ② 仲間の身体の変化に注意しながら、PTと相談をして作業面だけではなく、仲間たちの生活も支えていく。
- ③ 仲間たちの身体の変化だけでなく、生活面も職員間で共有しながら話し合う機会を設けていく。

【中長期目標】

- ①職員間で問題意識の共有をしていくと同時に仲間たちとも「将来のことや親亡き後のこと・働き方など」について話し合っていく

2019年度 活動報告書

	麦の里全体	作業・療護活動・仲間の会など	地域／協力他団体などに関する活動	職員会議など職員の動き	法人麦 会議など	七色の麦	麦の会および保護者の会
4月	3. 職員希望者面接 4. 職員希望者面接 8. 職員希望者面接2名 10. 相談支援員訪問 尾張旭 相談支援員訪問 瀬戸 瀬戸つばき特別支援学校 ごあいさつ 12. 後見人訪問 16. 相談支援員訪問 瀬戸 18. 消防点検 24. 後見人訪問 相談支援員訪問 瀬戸 25. 相談支援モニタリング(春日井市) 相談支援モニタリング(瑞浪市) 26. 瀬戸特別支援学校 ごあいさつ 30. 麦の里 活動日 ※仲間の健康診断…2. 4. 5. 9. 12. 17. 18 19. 25. 26. ※浅野Dr. 往診日…4. 18	8. 機関紙発送作業 16. 床屋デー 23. 北山地区廃品回収	6. 日立オムロンさくらまつり出店 11. みずのイオンイエローシート キャンペーン参加 14. 山口ふれあい朝市出店 ※やすらぎ木曜市…4. 11. 18.	4. 職員会議&総括会議 12. 総括会議 13. あいされん重度重複部会 ケース検討会 5名参加 14. みずのイオンイエローシートキャンペーン 贈呈式参加 19. 総括会議 ※職員会議…4. 26			6. 麦の会 定例会
5月	1～3. 麦の里活動日 7. 瀬戸ガス 水道工事 10. 電気点検 15. 浄化槽点検 日本理化 21. 後見人訪問 24. 職員希望者面接 30. 相談支援(瀬戸市) 31. 調理室フィルター交換 ※浅野Dr. 往診日…9. 23 ※仲間の健康診断…14. 16	10～30. 瀬戸市役所 請負内職 27. 春日台特別支援学校 夏物資注文書配達 28. 北山地区廃品回収 小牧特別支援学校 夏物資注文書配達 B組仲間の会 29. A組希望者 青色の麦見学 瀬戸特別支援学校 夏物資注文書配達 31. B組希望者 青色の麦見学 豊田特別支援学校 夏物資注文書配達	15. わいわいセール出店 17. シビックマルシェ出店 ※やすらぎ木曜市…9. 23. 30	31. 会計日 ※職員会議…1. 16	23. 理事会		2. 役員会 11. 麦の会 定例会 25. 麦の会 役員会
6月	4. 職員希望者面接 5. 職員希望者面接 10～21. 東濃支援学校高等部3年 実習受入 10. 職員希望者面接 アドバ 13. 職員希望者面接 相談支援員訪問 瀬戸 18. 相談支援員訪問 長久手 プリンター点検 21. 相談支援モニタリング(名古屋市) 24. エレベーター点検 25. ジョブスタイル 計画書提出(瀬戸市) 26. 後見人訪問 マット交換 27. ケースカンファレンス Rさん 28. 障害程度区分認定調査(春日井市) 春日井市役所福祉課訪問 ※浅野Dr. 往診日…6. 20	10. 機関紙発送作業 11. A組仲間の会 A組ボーリング練習 12. B組ボーリング練習 小牧特別支援学校 夏物資注文書配達 13. 瀬戸特別支援学校 夏物資注文書引取 豊田特別支援学校 夏物資注文書引取 14. 春日台特別支援学校 夏物資注文書引取 16. ウェルフェアボウリング大会 18. 床屋デー 24. 小牧特別支援学校 夏物資注文書引取 25. 北山地区廃品回収 31. 小牧特別支援学校 夏物資配達	9. 山口も～やっこ祭り…中止 11. みずのイオンイエローシート キャンペーン参加 ※やすらぎ木曜市…4. 11. 18. 27	14. EMホカシ出張 作業所あいさつまわり 25. 自立支援協議会主催 進路説明会 1名参加 食品適正表示研修会 1名参加 仲間通院付き添い 28. 会計日 ※職員会議…28	20. 理事会・評議委員会	1. 青色の麦 内覧会 15. 青色の麦 地域説明会 24. 青色の麦 開所 エレベーター点検	2. 麦の会 総会 21. 麦の会 役員会
7月	2. 社会福祉課訪問 瀬戸 後見人訪問(尾張東部後見人) 5. 物資打合せ ユニオン 17. 東農特別支援学校(見学6名) 25. 瀬戸つばき特別支援学校(見学5名) 26. 業者トイレ掃除 30. プリンター点検 わせだガズ エアコン水漏れ 31. 後見人訪問 ※浅野Dr. 往診日…4. 18	1. 小牧特別支援学校 夏物資販売 2. A組仲間の会 3. Rボーリング練習 4. 豊田特別支援学校 夏物資販売 5. 春日台特別支援学校 夏物資販売 11. 瀬戸特別支援学校 夏物資販売 12. B組仲間の会 16. Aレク(カラオケ) 23. Aレク(カラオケ・ランチ) 26. Aレク(買い物・ランチ) 30. 北山地区廃品回収 ※萩山台草刈り作業…23. 25. 26	※やすらぎ木曜市…4. 11. 18. 25	3. 仲間通院付き添い 10. 仲間通院付き添い ※職員会議…4. 12. 19. 26			6. 麦の会 定例会 20. 麦の会 役員会

8月	9. 炭窯搬入 20. 後見人訪問 職員希望者面接 21. マットの交換 22. 職員希望者面接 23. 見学者(3名) 施設見学者(1名) 26. 業者トイレ掃除 27. 瀬戸特別支援学校 見学者(12名) 相談支援員訪問 瀬戸 29. 職員希望者面接 ※浅野Dr. 往診日…1. 22 30. 後見人訪問	2. Aレク(カラオケ) 6. 床屋デー 9. 機関紙発送作業 26. B組仲間の会 27. 北山地区廃品回収	※やすらぎ木曜市…1. 8. 22. 29	2. 会計日 21. 交流フェスタ打ち合わせ参加 30. 会計日 ※職員会議…8. 30		3. 麦の会 定例会 31. 麦の会 役員会
9月	5. 瀬戸特別支援学校 (1名 来所) 相談支援員訪問 瀬戸市 6. 職員希望者面接 エアコン取り付け工事 11. 利用希望者打ち合わせ 12. 電気点検 13. ケースカンファレンス(りつ子) 14. 職員希望者面接 17. 職員希望者面接 18. 相談支援員訪問 春日井 19. 20. 特別支援学校中学生 作業場体験 20. 職員希望者面接 24～10/4. 利用希望者実習 25. 瀬戸特別支援学校 見学者(10名) 26. 後見人訪問 27. 職員希望者面接 障害程度区分認定調査(瀬戸市) 30. 職員希望者面接 エレベーター点検 ※浅野Dr. 往診日…5. 19 東海電産 電気工事…20～25	13. Bレク(ランチ) ヘルプマークコンサート鑑賞 14. せともの祭り募金 24. 北山地区廃品回収	15. くるみの里ふれあいガーデン出店 28. 29. 招き猫祭り出店 29. コロニーふれあい祭出店 ※やすらぎ木曜市…5. 12. 26	13. 利用者ケース会議 27. ネコミミ会議 ※職員会議…12	3. 七色の麦・青色の麦合同 かき氷大会 30. エレベーター点検	14. 麦の会 定例会 28. 麦の会 役員会
10月	1. 障害程度区分認定調査(瀬戸市) 2. 相談支援計画相談(瀬戸市) ユニオン物資打ち合わせ 3. 害虫駆除 4. 東農特別支援学校 見学者(1名) 12. 台風12号接近のため活動中止 19. ガス点検 17. 消防点検 23. 相談支援計画相談(瀬戸市) ガス点検 28. 業者トイレ掃除 29. 後見人訪問 相談支援員訪問 瀬戸 31. 防水修理 ※浅野Dr. 往診日…3. 17. 31	7. 機関紙発送作業 8. 床屋デー A組仲間の会 15. Bレク(恵那峡ワンダーランド) 21. Bレク(カラオケ・散歩) 春日台特別支援学校 冬物資販売のお願い 23. 豊田特別支援学校 冬物資販売のお願い 瀬戸特別支援学校 冬物資販売のお願い 24. Bレク(温泉・公園) 25.26. きょうされん全国大会in愛知 参加 28. Bレク(ランチ・公園) 29. 北山地区廃品回収	5. まっとつながる祭出店 11. みずのイオンイエローシート キャンペーン参加 18. シビックマルシェ出店 20. めくも里祭り出店 26. くわの実祭り出店 ※やすらぎ木曜市…3. 10. 17. 24	4. 会計日 10. 歯科衛生講習会 ※職員会議…10. 24 ※サービス管理責任者研修…3. 4. 7	31. 理事会・評議員会	12. 麦の会 定例会 26. 麦の会 役員会 31. 麦の会 学習会
11月	5. 職員希望者見学 14. インフルエンザ予防接種 19. 利用希望者見学 20. 業者トイレ掃除 22. 浄化槽点検 25. 後見人訪問 ※浅野Dr. 往診日…14. 28	1. Bレク(温泉・ランチ・散歩) 11. 小牧特別支援学校 冬物資注文書引取 13. 瀬戸特別支援学校 14. 豊田特別支援学校 冬物資注文書引取 15. 春日台特別支援学校 冬物資注文書引取 22. Aレク(スポッチャ) 25. Aレク(わくわく工芸館) 26. 北山地区廃品回収	10. ふれあい朝市出店 がおかフェス出店 13. わいわいセール出店 30. ボランティアフェスティバル出店 ※やすらぎ木曜市…7. 14. 28	7. 酵素食食べ比べ研修会 29. 会計日 ※職員会議…21		11. 障害者手当廃止反対 署名活動 開始 23. 麦の会 役員会 30. 麦の会 定例会

12月	3. 職員希望者面接 4. 職員希望者見学 相談支援員訪問 5. PC設定 9. コピー機点検 10. コピー機点検 11. もちつき大会 12. 事務機器点検 ジムブレーン 13. 相談支援 計画相談(瀬戸市) 17. 床屋デー 18. 相談支援員訪問 瀬戸 20. 後見人訪問 職員希望者面接 24. 利用希望者面談 27. 障害程度区分認定調査(春日井市) 28～ 麦の里 冬休み ※浅野Dr. 往診日…12. 26	2. 豊田特別支援学校 冬物資配達 5. 同朋大学 冬物資販売 6. 春日台特別支援学校 冬物資販売 9. 東濃特別支援学校 冬物資販売 機関紙発送作業 10. 瀬戸特別支援学校 冬物資販売 12. 小牧特別支援学校 冬物資販売 15. B組仲間の会 23. Aレク(ヤクルト工場・ランチ) 24. 北山地区廃品回収	8. ふれあい朝市出店 ※やすらぎ木曜市…5. 12. 19. 26	6. 仲間通院付き添い 15. 仲間通院付き添い 28. 会計日 ※職員会議…5. 12. 20		14. 麦の会 定例会 18. 障害者手当廃止反対 最終署名提出 25. 七色の麦・青色の麦合同 クリスマス会
1月	～5. 麦の里 冬休み 7. 職員希望者面接 9. 職員希望者面接 18. わくわく発表会 21. 相談支援員訪問 春日井市 22. プロパン点検 23. 布団リース交換 25. 麦の里 屋内配管工事完了 29. 後見人訪問 ※浅野Dr. 往診日…16. 30		22. 子育てサロン出店 ※やすらぎ木曜市…9. 16. 23. 30			25. 麦の会 役員会
2月	10. 職員希望者面接 13. 相談支援員訪問 名古屋 14. 厨房検査 17. 日本理化点検 18. 床屋デー 職員希望者面接 20. 職員希望者面接 25. 後見人訪問 26. ガスメーター通信機取りつき 27. 後見人訪問 ※浅野Dr. 往診日…13. 27	3. 竜泉寺節分募金 10. 機関紙発送作業 25. 北山地区廃品回収	9. ふれあい朝市出店 14. シビックマルシェ出店 ※やすらぎ木曜市…6. 13. 20. 27	9. 仲間のお見舞い 14. サービス管理責任者研修1名参加 20. あいかんさんと打ち合わせ 22. くわの実福祉会 つむぎ竣工式 4名参加 23. 近藤直子先生と障害児保育・ 療育活動講座3名参加 あいされんボランティア交流会 3名参加 28.会計日 ※職員会議…7. 21. 28	8. 青色の麦 洗濯機の修理	1. 麦の会 定例会 22. 「障害者手当のこれからを 考える会」話し合い 29. 麦の会 役員会
3月	1. 利用希望者面談 11. ガス点検 13. 麦の里 避難訓練 23. 相談支援モニタリング(小牧市) 30. 後見人訪問 ※浅野Dr. 往診日…12. 26		12. 椿の森掃除 ※やすらぎ木曜市…	4. 仲間通院付き添い 10. 仲間通院付き添い 13. 仲間通院付き添い 17. 仲間通院付き添い ※職員会議…6. 7. 13. 27	19. 理事会 26. 評議員会	9. 七色の麦 避難訓練 16. 青色の麦 避難訓練 28. 麦の会 役員会

